

福岡空港滑走路増設等早期整備の促進に関する
要 望

平成25年8月23日

福岡空港滑走路増設等整備促進期成会

会 長 末 吉 紀 雄

福岡空港は、現在、国内線25路線、国際線18路線を有し、九州・西日本地域の経済、文化、学術等の交流を支える中核的な拠点空港として、また、アジアへのゲートウェイとして重要な役割を担っており、福岡・九州、西日本の経済的な発展を支えてきております。

さらに近年では、格安航空会社の新たな就航が相次ぐとともに、4月には初めてのヨーロッパ直行路線が開設されるなど路線が充実しており、今後も国内外の航空ネットワークにおける拠点性を発揮していくことが求められています。

こうした中、平成24年の発着回数は、円滑に離着陸できるとされる14万5千回を超え、過去最多の14万9千回に達しました。朝夕の時間帯においては、航空機の混雑や遅延が常態化し、また同時時間帯での新規就航や増便は難しい状況となっております。

福岡空港の需要が高まる中、将来にわたって、アジア、世界を見据えた経済活動を展開するには、増大する航空需要に十分に対応できる能力を確保する必要があり、平行誘導路二重化や滑走路増設による滑走路処理容量の拡大は喫緊の課題であります。

いずれの対応策も整備に向けた取り組みが開始されているものの、平行誘導路の二重化については今後7年間、滑走路増設については、環境アセスメントならびに工事をあわせて10年以上もの事業期間が見込まれています。加えて、用地買収や埋蔵文化財調査、予算の状況によっては、さらに遅れることが懸念されます。

整備が少しでも遅れば、内外の利用客や市民の利便性はもとより、集客交流の活性化、ひいては九州・西日本の経済成長に重大な影響を与えるとともに、アジアの拠点都市としての役割を果たせなくなるのではないかと大変危惧されます。

そこで、一刻も早い滑走路増設等による滑走路処理容量の拡大を期するため、地元経済界や大学等の意思を結集し、「福岡空港滑走路増設等整備促進期成会」を設立いたしました。

つきましては、滑走路増設の環境アセスメント完了後の速やかな事業化とともに平行誘導路二重化の早期完成、それらに伴う十分な予算の確保や工期短縮の検討に積極的に取り組んでいただきますよう、強く要望いたします。